

日本の貨幣と言えば小判だが、それ以外にも平安時代～室町時代の約600年も、国家として自前の貨幣を持たなかった珍しい歴史がある。

奈良時代、日本最古の貨幣「和同開珎」が発行され、発行を祝して年号が「和同」に改元された。貨幣発行は国家的行事の一つであった。その後250年間は、「皇朝十二銭」が次々と発行された。ところが皇朝十二銭は958年を最後に、新たな貨幣の発行は無くなった。次に国家レベルの貨幣発行は約600年後である。

日本から砂金を輸出し、中国から銭貨を輸入する貿易で、中国から銭貨が大量に流入した。この渡来銭が日本の貨幣経済を支えた。

13世紀以降、人々は年貢を銭貨で納めるようになり、それまで年貢として納められていた生産物は、商品として取引された。15世紀後半以降、商品流通の発展によって銭貨需要は増大し、国内外で私的に作られた銭貨の流通により、銭貨は種類や形状により区別され、それまでの銭貨1枚＝1文の貨幣感が崩れ、銭種による価値の差が生じる等、国内の銭貨流通は混乱した。16世紀後半、中国からの銭貨供給が途絶え銭貨の流通量が激減した。

江戸幕府は1601年に「慶長小判」等の金銀貨を、1636年に銭貨「寛永通宝」を発行した。金貨は小判を基本単位の1両＝一分金×4＝一朱金×16とし、金貨は額面を記した。

銀貨は秤量貨幣で1両＝60匁が相場であった。銭貨は計数通貨で相場は1両＝1000文＝一貫文であった。（後述の購買力調査では、天保相場の6500文を使用しました。）

江戸幕府は改鋳前の品位の良い小判から得られる純金値と改鋳後の低品位（金含有率の悪い）、小型化された新貨に費やした純金値

## あれやこれや 其三十三 貨幣史（小判の実力）の巻

差額を出目益と云い、悪鋳による出目益は数百万両にも達し、当時の幕府収入を凌ぐ巨額であった。

江戸時代の260年間で9種類の「小判」が発行された。各期を代表する小判の実力を、各小判が内包する純金値や最大購買力を比較してみよう。

| 名称 | 量目    | 品位  | 純金  | 金相場       |
|----|-------|-----|-----|-----------|
| 慶長 | 17.9g | 84% | 15g | 257,460 円 |
| 元禄 | 17.9g | 57% | 10g | 171,640 円 |
| 天保 | 11.3g | 57% | 6g  | 102,984 円 |

慶長小判に比べ元禄小判は品位（金含有率）が3割程度低く、出目益は元禄小判1枚当り約金10gと見積れる。

元禄小判に比べ天保小判は量目（重量）が4割程度小型化し、出目益は天保小判一枚当り約金4gで、金相場は17,164円/g

1両の米最大購買力（1石＝150kg）

銘柄米量販店売価（5kg＝3,500円）

1両の実力値＝150×3500÷5＝105,000円

6,500文の豆腐最大購買力（24文×270丁）

現在の量販店売価 120円

1両＝6,500文の実力値＝120円×270丁＝32,400円

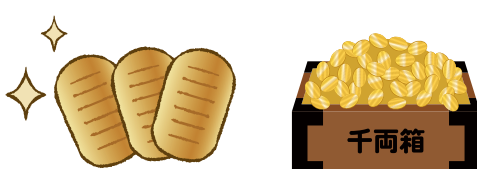
1両＝6,500文の生卵最大購買（7文×920個）

現在の量販店売価 28円

1両＝6,500文の実力値＝28円×920＝25,760円

明治新政府は1871年、新貨条例により金貨本位制（金1.5g＝1両）、単位は1円＝100銭＝1000厘とした。

森野吉雄



みんなでつくろう！ようかいちのまち

# 八日市まち協だより

八日市  
コミセンHP



第77号

令和7年11月発行

## 八日市町 秋まつり

八日市町では、秋まつりを10月13日に開催いたしました。ステージでは、びわこジャズ東近江にも出演されているUSA Gig Me!（うさぎぐみ）の方々に、懐かしい昭和のヒットソングを歌っていただきました。ゲームコーナーでは、ポケネット・輪投げ・スーパーボールすくい・回転くじ等にたくさん子どもさん達が集まって、たいへん賑やかでした。

毎年恒例のビンゴゲームでは、多数の参加により大盛り上がりとなりました。

フードコートでは、焼きそば・フランクフルト・フライドポテト・かき氷・ポップコーン・みたらし団子・ビール等の模擬店が出て、開店から大盛況になっていました。



大盛況のビンゴ大会

## 自治会の秋まつり

今年も暑い夏でしたね。各自治会の夏まつりが、秋に行われるようになりましたので紹介します。



よい天気で秋らしい日でした



大人気！スーパーボールすくい



ヨーヨーつり  
清水川からタライになる



いつも人気の射的ゲーム



焼きそば  
雨の中テントで頑張る



フランクフルト  
中学生も大活躍

## 清水町 いきいき秋まつり

昨年までは学校の夏休みに入った頃に「夏まつり」として実施していましたが、近年の猛暑を受け、秋口の10月25日に時期を変更して行いました。当日は夕方から雨の天気予報であったので主な模擬店は清水会館内に移し、火気使用の模擬店は屋外テントとし、自治会と関連団体で準備にあたりました。

開始時刻頃から雨が降り出しましたが、屋外・館内とも家族連れで活気にあふれ、締めめのビンゴゲームも盛り上がりしました。

今年は、例年にも増して中学生がたくさん参加してくれ、各模擬店のスタッフとして大活躍。大人との交流が図れました。

高嶋芳紀

## 片言隻句

皆さんは秋といえば何を思い浮かべますか？紅葉、スポーツ、読書、芸術、実り、食欲等色々ありますよね。秋の澄みきった青空に、赤や黄色に染まった楓や銀杏の葉っぱがとても美しく感じます。

しかし、近年は地球温暖化の影響が、異常気象により、日本の四季の良さが失われつつあるように思います。やっと寒い冬が終わったと思えば、うららかな春の陽射しはごく僅か。すぐに蒸し暑くなり、梅雨に入っても空梅雨が集中豪雨。夏は猛暑日がこれでもかというくらい続き、いつまでも暑いのか、秋は来るのかなと思いました。今年も短い秋になりましたね。

夏の猛暑に耐えて綺麗に色付いた楓や銀杏を愛でる紅葉狩りは行きましたか？

また、『天高く馬肥ゆる秋』とも言いますよね。美味しい物がたくさん出回る時期でもあります。

私をはじめ皆さんも食べ過ぎには注意しましょうね。

古賀 綾子

編集  
発行

八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内  
IP電話 050-8034-1141 電話・FAX 23-4120  
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp





今回、初お披露目の「鈴鹿一番太鼓」ド迫力に会場は聞き入りました。



「空き缶タワー」  
空き缶を時間内にどれだけ高く積み上げられるか競争です！  
慎重に！慎重に！あわてず急いで。

## 東本町 10月12日開催！ 東本町フェス



「大抽選会」  
皆さんワクワク！ドキドキ！です。



「ドリーマーズの大道芸」  
みごとな技と軽快なおしゃべりで会場の皆さんは盛り上がりでした。



「紙飛行機競争」  
選んだ飛行機を飛ばして飛距離を競います。  
「飛べ、僕の私の飛行機たち！」

山本 満

## 金屋町 ふれあい祭り

今年も金屋ふれあい祭りが10月12日に行われました。今年で5回目になります。事前の天気予報が日によって色々と変わり、当日も厚い雲で空が覆われ、開始前には小雨がありましたが、本番ではなんとか雨が降ることはありませんでした。ステージでは昨年に続いて「湖鼓」さんのドラマチックな太鼓の演奏が披露されました。また木猫隊の皆さんのアンサンブル演奏があり、祭りを盛り上げていただきました。

子ども達は、射的やフリスビーによるストラックアウト、色々なお菓子やおもちやが当たる千本釣りといったゲームを楽しみました。さらにお菓子の詰め合わせや綿菓子が配られました。焼きそばやサンドイッチ、唐揚げなどが売られ、大人には生ビールもありました。

最後には恒例のビンゴゲームが行われ、さっさと豪華な商品をゲットして大喜びする人から、全然ビンゴに至らない人まで、みんなで楽しむことができました。

荒川貴美代



大勢の方でにぎわいました



さまざまな出店

## 秋の天体観測会・かまどベンチで豚汁

11月1日、金屋ふれあい広場で金屋女性会主催による秋の天体観測会を行い、豚汁をふるまい、50人ほどが集まって楽しみました。天体観測では望遠鏡をのぞいて、環がとても細く見える土星や、クレーターがくっきり見える月の観測ができました。豚汁は、自治会の役員さんが火起こしをしてくださった「かまどベンチ」で作りました。大鍋で作ったあたたかい豚汁は人気で、おかわりされる方もたくさんおられました。次は1月に、冬の天体観測会をする予定です。

荒川貴美代

## 浜野正社会楽人部演奏会



浜野正社会楽人部が、9月7日にアピアセントラルコートにおいて演奏会を行いました。午後2時と4時、それぞれ30分間の公演でした。

楽人の衣装を着た7名のメンバーに加えて、太郎坊宮の村田さんが巫女さんの装束で特別出演してくれました。総合司会をラジオパーソナリティーのKumiさんが勤め、浦根が楽器と曲の説明をしました。最初に篠笛・太鼓・銅拍子による「御神楽」を演奏し、曲に合わせて巫女さんが神楽舞を披露しました。

次に笙・箏・龍笛・太鼓で、雅楽では一番有名な「越天楽」を演奏し、最後に現代の曲である一青窈さんの「ハナミズキ」を雅楽器で演奏しました。



ドレミの音符がない雅楽器は、指の押さえ方が譜面としてあるだけで、苦勞して音合わせをして曲に仕上げたものでした。

アンコールの声に押されてもう1曲、中島みゆきさんの「糸」を演奏し大きな拍手を受けて終わりました。2回目の公演では予定にはなかったのですが、巫女さんも鈴を鳴らして「ハナミズキ」と「糸」に参加してくれました。

約50脚用意された椅子が満席になり、2階・3階のエントランスで聞く人もあり演奏会は大盛況でした。

浦根悦夫

### 金屋町

10月24日金屋町の人権まちづくり懇談会が行われました。テーマは、「滋賀県で学ぶ戦争の記録～語り継ぐ平和への願い～」滋賀県平和祈念館の村田明さんにお話をいただきました。

#### 1, 戦時中の滋賀県

各家庭からの金物の供出から始まり、その代替品として陶器。滋賀県の信楽焼でも爆弾、地雷、手榴弾、が作られており、実物も持参されていて、参加されていた方も身近な信楽焼の別の一面に驚かれていたようです。県から出征された方は、延べ約90,000人（2,3回出征された方も多い）。

当時の県の人口約700,000人、戦死者32,592人、東近江市での戦死者3,817人。

#### 2, 戦時中の八日市

八日市飛行場は、大正初期に愛荘町の荻田常三郎氏が個人で建設を進められたものの、氏が事故死されたため、後に陸軍の飛行場となりました。今ではその名残りは正門、掩体壕（えんたいごう）ぐらいなっています。

八日市方面への空襲は終戦間際の7月に集中していたようです。中でも永源寺町の空襲でラジオ体操中に警報がなり、家にいたお母さんが呼びに行った目の前で、2人の幼子が機銃掃射で亡くなった話は、改めて戦争の悲惨さを痛感させられました。

詩人の石垣リンの詩「戦争の記憶が遠ざかる時、戦争が又私たちに近づく」で締めくくられました。

小谷昌行

### 東本町

東本町では、令和7年度人権のまちづくり懇談会が9月21日に開催されました。

今回のテーマは「発達凸凹・発達障害とは何か～当事者からのメッセージ～」と題し、発達障害という日常生活では聞き慣れぬ障害について、NPO法人発達障害をもつ大人の会 公認心理士の広野ゆい先生をお招きし、障害の説明や、自身も当事者である先生の体験談などをお話をいただきました。実は近年、大人で増加している障害を身近な事と感じ、お互いを認め、支え合って生きていける社会が大切だと学ぶ機会となりました。

山本 満

### 人権特集

### 緑町

去る9月20日八日市コミュニティセンターにおいて、緑町人権町別懇談会を実施し、DVD「言葉があるから」～（無自覚の差別マイクロアグレッション）～を視聴しました。

「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にあり、普段そのことを当たり前のよう理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまっていることがわかりました。あからさまな差別表現でなくても、無自覚に相手の尊厳を傷つけるような言動をしないよう、また自覚なく加害者にならないために日頃から考えていきたいと思います。

松村栄士